

ふるさとだより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2014年

Jan

NO.32

1

Pick up

年末年始特集

新しい年に向けて着々と進むふるさとの復興を伝えます。



今月の子どもたち チアリーディングチーム クラpps 小名浜チーム
左から/國井穂花ちゃん、郡司莉奈ちゃん、郡司姫奈ちゃん、山廻辺楓子ちゃん



久之浜・大久

グランドデザイン策定へ
年末・年始の久之浜・大久



四倉

万作・萬齋さん親子が四倉へ
四倉諏訪神社の鳥居再建



平

福島応援バスツアー
豊間・薄磯地区、安全祈願祭



小名浜

復興を見つめるカメラマン
モーターボート贈呈式



勿来

勿来地区「初詣特集」
災害公営住宅 進捗状況



復興対策協議会 復興ランドデザイン策定部会



毎月2回開かれる会議。出席者は2つのグループに別れ活発に議論を交わします

久之浜・大久地区復興対策協議会(吉原二八会長)に設置された復興ランドデザイン策定部会。19名の委員とオブザーバーとして参加する同協議会役員、20代から80代までの地区住民が同じテーブルを囲み協議を進めています。

多くの住民の思いを反映させるために

「久之浜・大久地区が抱える課題を考え、『こんな町になつたらいいな』『こんな町にしたくない』っていう思いを復興ランドデザインとして作り上げていく。荷が重くて大変な作業ですが、一人でも多くの地区住民の様々な声と思いを活かしたものにしたい」と部会長の遠藤諭さん。12月8日に久之浜町婦人会役員、12月20日に幼稚園児を持つ若い親たち、12月22日には漁協、農協、商工会各団体の青年たちとの協議を開催。また、久之浜一小、二小と久之浜中学校の協力を得て児童生徒に「みんなの冬休みの学習 久之浜・大久地区の未来を考える」と題した宿題を出しました。今、地区の未来を



遠藤部会長(上写真)の進行で会議は進みます。自分の考えや意見を付箋紙に書き出します



各グループで協議・検討結果をまとめ発表。出席者全員で情報の共有を図ります



各個人の考えや意見を確認し、グループ内で協議された内容が整理されています

3月の復興ランドデザイン策定へ向けて

昨年10月17日に第1回会議が開かれた復興ランドデザイン策定部会。これまで久之浜・大久地区の現状と課題の整理、まちづくりの指針・目標などの協議を重ねてきました。これまでの協議を踏まえ、1月15日の第7回会議からは、まちづくりの役割分担や事業の優先順位、そして重点的項目をピックアップして協議をより深め、3月の復興ランドデザイン策定を目指して作業を進めています。

はまカフェ 町中に語らいの場を 浜cafeオープン

久之浜北町。家屋の基礎撤去を進める重機の音が響く町の一角に、食事やお茶をしておしゃべりが楽しめる店「浜カフェ」がオープンしました。店主は、久之浜生まれ久之浜育ちの白土和江さん。「町の西側には浜風商店街があるけど東側には何も無いから寂しくて。このままじゃいけないなと思ってました」と白土さん。平で飲食店を営業していましたが、1年前にお店をたたき、新たに久之浜でお店を開く決心を固めました。区画整理や道路の拡張予定で土地探しには苦労しましたが、11月22日オープンの日を迎えることができました。以来、地元に住む人に加え、工事関係者などが足を運び、昼食や午後のお茶の時間を楽しんでいます。



お店の前で店主・白土和江さん。営業時間は11時から20時、日替わりランチがコーヒー付きで500円。日曜定休



営業を終えた葉匠梅月のご主人片寄清次さんらが来店。昔話に花が咲き、なごやかに楽しい時間が流れていました

「ふらつと立ち寄って、食べて、お茶を飲んでしゃべって帰る。今の久之浜には、こんな店が必要だと思うの。賑やかになって行く町をこの目で見届けたいわね」そう話す白土さん。「来たわよ」と顔なじみが店を訪れ、お茶を飲み、昔話に花が咲く。そんな光景を毎日見ることが出来る場所、それが「浜カフェ」です。

防災緑地 植栽樹木の苗作り

久之浜町内に計画されている総延長1.3km、面積11.2haにおよぶ防災緑地。11月29日、久之浜・大久地区復興対策協議会による緑地帯への植栽樹木の苗作りが行われました。久之浜一小6年生、久之浜二小の全児童と同協議会役員も作業に参加。文部科学省理科支援員でもある吉岡榮一東町区長の指導の下、クヌギなどのどんぐり、潮風に強いシャリンバイなどの種を、用意されたペットボトルや育苗ポットに植え込む作業が行われました。



防災緑地には約2万本の樹木が必要と考えられ、今後も更なる苗作り、そして育苗が続けられます



会長	水野 功 (大久)
副会長	吉田光子 (東町北町)
幹事	高木 一 (中町)
幹事	新妻タケ子 (西町1)
幹事	高木京子 (東町北町)
幹事	渡邊友子 (筒木原)
幹事	水野谷伯正 (筒木原)
幹事	坂本眞壽美 (北町)
監事	橋本 蒼延 (南町)

◆復興対策協議会役員会が開かれました。
12月11日、久之浜・大久地区復興対策協議会役員会が開かれました。

◆災害公営住宅の杭打ち工事が終了し、基礎のコンクリート工事を経て、2月から外壁工事が始まります。来年2月の入居開始の予定で工事が進められています。

◆住宅除染の進捗状況と除染廃棄物の仮置き場への搬入状況の報告がありました。そして、震災以来手付かずとなっていた道路側溝の砂上げでしたが、側溝土砂のモニタリングが進み、道

復興対策協議会役員会

路除染のため側溝土砂の撤去を行うことが了承されました。

土地区画整備事業 安全祈願祭と起工式

流出家屋基礎等の撤去工事が11日、久之浜震災復興土地区画整理事業の安全祈願祭と起工式が行われました。諏訪神社高木美郎宮司により執り行われた安全祈願祭の後、起工式で清水敏男市長が「二日も早い生活再建に努め、明るく元気ないわき市の創造を」と式辞を述べました。

復興へ向けた動き

民生児童委員の改選

久之浜・大久地区民生児童委員協議会(飯島香織会長)総会が開かれました。11月30日で任期を終える委員の改選が行われ、飯島香織さん(小久)、柳内欣子さん(大久)、鈴木繁雄さん(田之網)、猪狩喜実子さん(南町)が退任。新たに、鈴木貴代美さん(田之網)、橋本蒼延さん(南町)、猪狩ミヨシさん(大久)、谷平ひさ子さん(小久)が選任されました。12月2日に開かれた臨時総会で、退任する飯島会長に代わり水野功さんを会長に選出するなど、役員の改選も行われました。任期は平成25年12月1日から平成28年11月30日までとなります。

久之浜・大久地区 民生児童委員協議会新役員

(敬称略)

久之浜地区放射線量測定記録 (各区代表ポイント)

- 測定日:平成25年12月25日(天候:晴れ)
- 測定者:久之浜・大久地区復興対策協議会
- 測定器:日立アロカメディカル製 TCS-172 (シンチレーションサーベイメーター)

測定ポイント	地上1cm	地上100cm
田之網(田之網集会所)	0.11	0.10
南町(旧道沿い中央部)	0.10	0.09
中町(旧道高木屋旅館付近)	0.10	0.10
北町(久之浜駅前)	0.15	0.13
東町(旧久之浜漁協前)	0.09	0.10
西町1区(西町公園付近)	0.13	0.12
西町2区(久之浜一小正門付近)	0.21	0.18
金ケ沢(鹿野付近)	0.20	0.18
末続(末続駅前)	0.21	0.20
大久(大久公民館付近)	0.17	0.15
筒木原(久之浜二小西門付近)	0.11	0.12
小久(町田橋付近)	0.15	0.15
小山田(小山田集会所付近)	0.18	0.17

単位はすべてμsv/h

※(株)東北イノベーターのHP
<http://www.thkinovator.co.jp/> より詳しい放射線情報をご覧ください。

盛んに「ありがとうのクリスマス会」

12月23日、子どもたちや久之浜・大久地区で活動するボランティアが父母や地区の方を招待しクリスマス会を久之浜一小で開きました。体育館が約300名の参加者で溢れ返りました。



波立海岸での初日の出、そして初詣

2014年(平成26年)元旦。夜が明け切らぬ波立海岸。多くの方がその時を待ちました。そして、水平線の彼方から見事な初日の出。様々な思いや誓いを胸に新たな年が始まりました。



年末年始の久之浜・大久



ユーモアを交えながら話す萬齋さん。「テレビで見たことある!」と児童たちは大喜びでした

野村万作、萬齋さん親子が 四倉を訪問

狂言の楽しさと笑顔の大切さを伝える



「万作の会」のみなさんが披露した「茸」の動き。児童たちも体験しました

伝統芸能の魅力を紹介して 生徒たちを激励

狂言師で人間国宝の野村万作さんと、その長男で映画やテレビ番組でも活躍している萬齋さん、そして万作さんを中心に公演を行うグループ「万作の会」のみなさんが、子どもたちを励まそうと、四倉中学校と四倉小学校を訪れました。

「万作の会」は、12月9日に「いわき芸術文化交流館アリオス」で震災復興支援公演を行い、その翌日、四倉ふれあい市民会議のメンバーが橋渡しをして、学校訪問が実現。

四倉中学校では、体育館に集まった全校生徒の前に、万作さんが新作の狂言の内容を紹介し、

紹介し、萬齋さんが狂言独特の笑いの型を実演した後、生徒たちに演技を指導しました。

最初は戸惑い気味だった生徒たちも、萬齋さんの話術に引き込まれて、少しずつ声を出すようになり、やがて体育館には大きな笑い声が響き渡りました。

万作さんは「笑いには元気のもとで、笑顔なら人と打ち解けられます。笑いを絶やさずに生活して下さい」と生徒たちにメッセージを送りました。

「今日の経験を 今後に生かして」とエール

四倉小学校では万作さんが小舞「八島」を披露したほか、萬齋さんが笑いの型を実演。また「万作の会」のみなさんが狂言の演目「茸」で、コミカルに

動き回るきのこの様子を演技した後、児童たちも真似をして体を動かしました。

見送り際には、萬齋さんが出演したNHKの「にほんごであそぼ」のセリフである「ややしやく」を口ずさむ児童たちの姿も。

萬齋さんは「みなさんが元気で安心しました。今日、大きな声で笑うという経験をしたことが、今後の一助になればいいなと思います」と話しました。

限られた時間の中でしたが、室町時代から続く日本の伝統芸能と、その道の第一人者に触れることが出来、笑うことの大切さを知った児童、生徒たち。忘れられない貴重な体験になったことでしょう。



会場の礼法室に溢れる笑顔。児童たちは、大きな声で笑うことの楽しさと大切さを学んだ様子でした



源平合戦の鳥島の戦いを題材にした小舞「八島」を披露した万作さん。児童たちは興味津々



ひざを曲げて腰を落としてから、体を起こしながら笑う「型」を披露する萬齋さん

四倉諏訪神社で鳥居が再建

四倉諏訪神社は、震災で境内を囲う玉垣が崩れたり、石灯籠が倒れたりしましたが、昭和7年に建てられた鳥居の倒壊が一番大きな被害でした。「氏子に配慮して、日常生活が元どおりになることをまずは優先し、震災から一年を経てから、鳥居の再建に動き出しました」と話すのは鈴木重賢宮司。

神社総代が中心になって寄付を集めるなどした結果、昨年11月、震災前と同じ石造りの鳥居が完成しました。

12月8日には現地での竣工式が開かれ、総代会員、氏子、施工業者などが集まり、神事が執り行われました。

「おかげさまで、年内に完成しました。初詣に来られる方々を、新しい鳥居でお迎えすることが出来てホッとしています」。



以前の場所より約50mほど拝殿寄りに建てられた鳥居

四倉13区集会所が完成

津波で被災した四倉第13区の集会所が新築され、11月30日に現地で鍵の引き渡し式が行われました。

新しい集会所は木造2階建てで、復興交付金事業の基幹事業である「木質バイオマス施設等緊急整備事業」を活用し、いわき産のヒノキなど地域材を使って整備され、木質ペレットストーブを導入しています。施設面積は56・62平方メートル。同区の佐藤弘区長は「地域のみなさんに、どんどん利用して欲しいですね」と話していました。



住民が見守る中、清水敏男市長から鍵を手渡される佐藤弘区長



津波発生時に避難出来るように2階建てになりました

仲町商売会の取り組み

12月26日、仲町商売会の「暮市餅つき大会」が、桂建設前で開かれ、つきたての餅の配布やしめ飾りの販売などがあり、子どもたち向けのくじ引きも用意されました。

「活気あふれる町になるためには、四倉の将来の担い手である子どもたちに元気がないといけない」と話す商売会長の鈴木好之さん。

昨夏は、商売会の恒例行事「仲町ホコ天ブラブラリー」の会場で、四倉小学校の校庭で約20年前まで開かれていた盆踊り大会を復活。浴衣で参加した子どもたちには、かき氷



つきたての餅が好評だった仲町の暮市。小さな子も大人に手伝ってもらいながら餅をつきました

を1杯無料サービスにして大好評でした。震災や津波の影響で建物に被害が出るなどして、商売を辞めてしまった店もある中、商売会を挙げて町に賑わいを取り戻そうと奮闘しています。

キッズランドでメリークリスマス

12月21日、道の駅よつくら港に隣接するキッズランドで、NPO法人ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会による「子どもクリスマス会」が開かれました。

動物の形をした風船が来場者にプレゼントされたほか、バーベキューを味わったり、紙粘土で雪だるまを作るコーナーも人気を集めました。また約30名のサンタ



たくさんのサンタクロースが会場を訪れ、プレゼントを子どもたちに配りました

クロースが会場を訪れ、子どもたちにプレゼントを手渡す場面も。午後からは、ミュージシャン「AERIAL」によるライブもあり、会場は親子連れで賑わいました。



バーベキューに列を作る来場者のみなさん。あつという間に平らげて、おかわりする子もいました

四倉公民館で餅つき会

市青少年育成市民会議四倉地区推進協議会による親子餅つき会が12月24日、四倉公民館で開かれました。

四倉地区の子どもたちや保護者ら、約80名が参加して、まず大人が大きなきねで餅をついた後、いよいよ子どもたちの出番。4人ずつ交替しながら、千本ぎねでつきました。

つきあがった餅は協議会の女性会員らが雑煮にしたり、あんこやきな粉で味付けしました。自分たちでついた餅の味は格別だったようで、子どもたちは何度もおかわりしていました。



▲参加した四倉児童クラブの6年生たちも、大満足の様子でした

▶みんなで力を合わせて、ペタンペタンと餅をつきました

お知らせ

1月25日(土)

- 第22回四倉地区青少年健全育成推進大会
- 場所／四倉公民館 13:00～15:30
- 記念講演と小中高生による意見発表があります

2月6日(木)

- 四倉地区まちづくり懇談会
- 場所／四倉公民館 14:00～15:45

みんな上手にできました!第一幼稚園で生活発表会



幼稚園最後の生活発表会で演奏する5歳児・ばら組の園児たち

12月1日、四倉第一幼稚園の生活発表会が、四倉小学校の礼法室で開かれました。

保護者や教職員が見守る中、48名の園児たちはクラスごとに分かれて元気に歌ったり、先生の指揮に合わせて合奏をしたほか、小さな体を一生懸命に動かしてダンス、劇などを披露しました。

福島応援学習バスツアー

映画監督が企画

震災後、福島支援を続けているNPO法人「Social Net Project MOVE」主催の「福島応援学習バスツアー」が行われ、12月7日に須賀川、二本松、8日にいわき市内と富岡町を訪れました。

同法人の秀嶋賢人理事長は震災後、独自に福島で取材をし、「たくさんの人に実際に被災地を訪れ、色々なことを感じてほしい」と、このバスツアーを企画したそうです。

で、昨年豊間小学校で制作された2本の映画を豊間公民館で観賞。映画を観た参加者は「困難なことを体験して大変だったでしょうけれど、笑顔がとても良かった」と話していました。その後、薄磯で区役員から震災講話を聞きました。

「報道では伝わらない、いわき市の現状を知りました。これから応援していきます」と参加者の一人は話し、いわきを後にしました。



プロフィール／映画監督。福岡生まれ。早稲田大学卒。東宝現代劇戯曲科9期。平成23年6月にNPO法人MOVEを設立。福島への支援を続けています。



薄磯のかまぼこ工場跡で区役員の大谷慶一さんの講話を聞くツアーメンバー



豊間小学校で制作された映画に真剣に見入る参加者



薄磯の丸又かまぼこで買い物を楽しみました

豊間小・中学校へ音楽のプレゼント

「いわき室内楽協会」の訪問演奏会が11月29日、豊間小学校体育館で行われました。

日本を代表する音楽家たちが同校の児童および同じ校舎で学習している豊間中学校の生徒たちへ、一足早い音楽のクリスマスプレゼントを届けました。

聴き慣れないクラシック音楽にはじめは戸惑う児童や生徒もいましたが、次第に演奏に引き込まれていました。

同協会は震災後いわき市への慰問演奏活動を続けてきたチェロ奏者・丸山泰雄氏を中心に、市民有志とともに昨年4月に発足。

丸山氏は震災後、福島、宮城で100回を超える慰問演奏の中で「音楽を聴き、泣いた後で、やっと本当の感情があふれるのを実感し、音楽の大切さを知りました。これからも音楽を届けていきたい」と話していました。



丸山氏の提案でなるべく近くで音楽にふれてほしいと児童、生徒のすぐ側で演奏され奏者の息吹まで感じられました



児童、生徒の手の届く距離での演奏は音楽がより身近に感じられました



プロフィール／チェロ奏者。宮城県仙台市生まれ。東京藝術大学卒業後、イタリア、ドイツで学ぶ。日本音楽コンクール第1位、数多くのコンクールで上位入賞

復興へ向けた動き

豊間・薄磯地区で安全祈願祭

12月15日、薄磯字小塚地内（旧豊間中学校隣）で「豊間・薄磯震災復興区画整理事業合同安全祈願祭及び起工式」が行われ、地元住民など約200名が参加して、工期中の安全と早期完成を祈願しました。

起工式では清水敏男市長が「まだまだ多くの方が不自由な避難生活を送っています。復興の加



豊間鈴木区長と薄磯鳥居区長で清水いわき市長をはさんでの鉄入れ

速と元気なまちづくりに全力で取り組みます」と話しました。工期は平成24年度～平成27年度で、施工面積は豊間56・4ヘクタール、薄磯37・2ヘクタールの宅地や防災緑地などを造成します。

起工式に出席した鳥居喜一郎薄磯区長は「起工式を終えて、やっと安心できます」と話し、鈴木徳夫豊間区長も「本格的な工事も始まり、亡くなった方々に報告できます。まちの早期復興を望みます」と話していました。



玉串を捧げる豊間鈴木区長



全国からサンタが集合

12月22日、豊間小学校体育館でNPO法人「パワオプジャパン」のクリスマススイベント「第3回あわてんぼうのサンタクロース大作戦」が開催され、ゲーム大会やキャラクターショー、プレゼント抽選会などが行われました。

前日は、いわき・ら・ら・ミュウの従業員や中央台仮設住宅の住民などにプレゼントを渡しました。

同代表の神田望美さんは「今回もたくさんの人に協力していただいて、プレゼントを贈ることができました。みなさんに感謝します。また続けていきたい」と話していました。



◀関東を中心に大型バス3台でやってきた大勢のサンタクロースたち



▶会場の外では地元野菜や民芸品、キッチンカーも出ていました

年末年始の風景



基礎撤去工事が始まり復興が進む薄磯地区。今年は新しい風景が見られることでしょう



いわき病院のクリスマスイルミネーション。年末まで豊間のまちを彩っていました



薄磯の初日の出。空撮映像「かもめの視線」制作者の酒井英治さんがフライトしていました



薄磯の堤防工事現場。復興の足音が聞こえてきます



豊間海岸では沢山のサーファーが初乗りを楽しんでいました



元旦の豊間諏訪神社。住民同士の交流の場になっていました



店内に設けられたフォトスタジオ



津波で水没した思い出のカメラが店内に飾られています

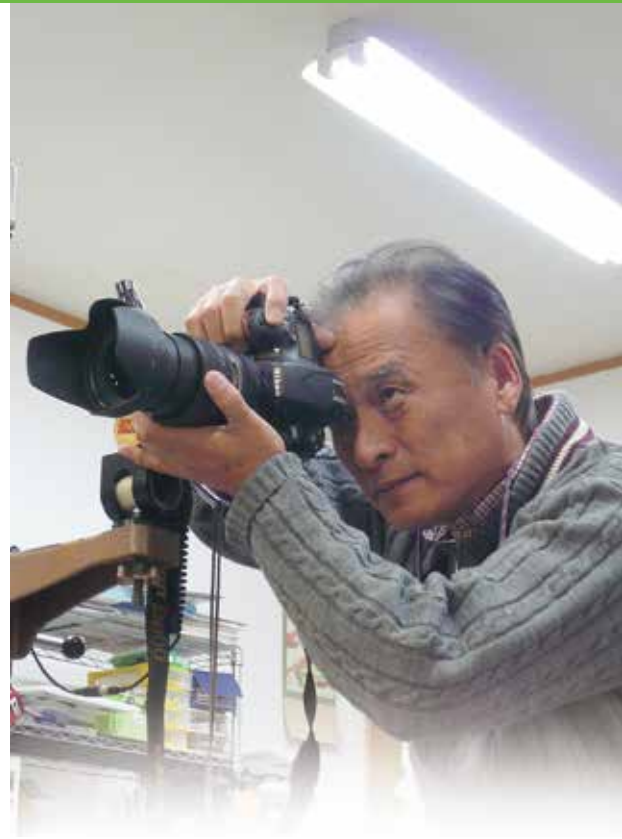
震災後も変わらない写真への情熱

タカギフォトサロン

高木 滋さん

フアインダー越しに、小名浜の街と人々の復興を見つめるカメラマンがいます。タカギフォトサロン店主の高木滋さん(64歳)です。

震災直後は人命救助を優先させ、近所のお年寄りを車で高台に避難させた後、カメラなどの撮影機材を持ち出そうと小名浜港近くにあった店に戻ったところ、津波にのめられました。首まで海水に浸かりましたが、ブロッコ堀に挟まれ流されず、九死に一生を得ました。



営業再開を決意 そして感謝

震災後、仕事を続けるべきか迷いを持ちながら東京に一時避難していたところ、長年つきあいをしている幼稚園から卒園式の撮影依頼があり、今後もシャッターを押し続けようと決意しました。震災から半年後には、被災した店舗の向かい側にあるテナントビルの二室で営業を再開。「お得意様や講師を務める小名浜カメラ愛好会の会員からの『いつ店を再開するのか』という声や、営業再開を後押ししてくれた。本当にありがたかった」と2年前を振り返る高木さん。

現在は七五三や成人式、学校行事などの撮影、高木さん自慢のサービスク切り貼りアルバム作りなど、震災前と変わらず多忙な日々を送っています。



お客様から好評の切り貼りアルバムを持つ高木さん

震災を乗り越え、 次なる目標へ

震災が起きる数日前に購入したカメラや学生時代から愛用していたカメラなど、様々な想いが詰まった約30台のカメラは海水に浸かり、シャッターを切ることができなくなりました。「水没したカメラを震災遺品として展示し、お茶を飲みながらカメラや写真の話ができる博物館を作りたい」と次の目標に向かって走り始めています。

震災を経験して、本当に写真とカメラが好きだということを実感した高木さんは、復興していく街や人々の様子を写真で後世へ伝えるために、これからもシャッターを切り続けます。



奥様と二人三脚で店を盛り立てています



タカギフォトサロン
いわき市小名浜辰巳町17-1
清水ビル1F
☎0246-52-0737

モーターボート「エトワール」が寄贈

12月9日、三崎公園下の下神白採鮑組合漁港にてモーターボートの贈呈式が行われました。これは女子プロゴルファー比嘉真美子選手から福島県セーリング連盟にモーターボート(全長6m、総員5名、90馬力)が寄贈されたものです。震災後、津波被害でレスキュー艇が不足し、いわき海星高校ヨット部などの活動が制限されていたことから、比嘉選手による被災地支援の一環として実現しました。

このボートは、昨年4月の大会優勝の副賞で、フランス語で星を意味する「エトワール」と比嘉選手が命名。レスキュー艇やヨットコーチボートなどとして、いわき海星高校ヨット部やジュニアセーラーの練習や各種大会運営を見守るほか、海洋学習など地域で幅広く活用されます。

◀お礼に念仏踊りを披露した海星高校じゃんがらチームと比嘉選手



◀比嘉選手から福島県セーリング連盟・緑川幹朗会長へ目録が渡されました



▶海星高校ヨット部員から感謝の言葉と実習で製造した缶詰が贈られました



復興へ向けた動き

小名浜港背後地震災復興土地区画整理事業安全祈願祭&起工式

12月18日、小名浜字定西地内で行われ、清水敏男市長はじめ100名以上の関係者が列席しました。

震災前より小名浜港背後地開発ビジョンが策定されており、震災により津波被害を受けたことで、「震災復興土地区画整理事業」「津波復興拠点整備事業」が計画されました。

当該事業により、平磐城線（鹿島街道）の延伸、国・県庁舎の移転整備、鉄道貨物ターミナル移転と跡地の再開発などをを行います。平成27年度末を目標に、港と市街地が一体となった魅力的なまちづくりの実現を目指しています。



▲事業計画イメージ図
▼関係者による鉄入りの様子



市立永崎集会所完成

永崎字川畑にあった集会所施設「永崎会館」が津波被害により大規模半壊となり、木造平屋建ての市立集会所が永崎字宮田の高台に新築されました。11月30日、同所で鍵引渡式が行われ、清水敏男市長から秋山和夫区長へ鍵が渡されました。12月より供用が開始されています。

◀鍵引渡式の様子



▼新築された集会所の外観



永崎海岸の道路整備進む

津波の被害を受け、修復工事を行っていた永崎海岸の新大平橋付近の道路と歩道の整備が、12月末に終了しました。隣接する大平橋と道路の工事も進行中です。



整備された新大平橋付近の道路

年末年始特集



11月30日 クリスマスツリー点灯式

いわきら・ら・ミュウで小名浜白百合幼稚園児38名が参加。飾り付け、合唱の披露が行われ、たくさんの来場者で賑わいました。



11月30日～12月25日 アクアマリンクリスマス

期間中、クリスマスツリーの展示、ライトアップ、サンタ探し、製作体験、キャンドル点灯式などのイベントが行われました。



12月14日 中之作 復港祭第4回朝市

中之作魚市場で行われ、海産物・食品・野菜などの販売やフリーマーケットが開催され、早朝よりたくさんの買い物客が訪れました。



12月15日 ふえすていばる絆&絆&絆

首都圏の大学生が都内で集めた募金を元手にして、被災者同士の絆を深めることを目的に、アクアマリンパークで開催。



12月28、29日 中之作プロジェクト しめ縄づくり

中之作川岸地区にある清航館にて開催されました。参加者は各自思い思いのしめ縄を作った後、自宅に飾り、新年を迎えました。



1月1日 江名諏訪神社初詣

元朝から境内にはたくさんの参拝者であふれました。毎年恒例の氏子による甘酒が振る舞われ、訪れた人の体を温めました。

お知らせ

●2月1日(土)～3日(月) 10:00～16:00
中之作 つるし雛飾りまつり
(中之作・清航館)

●2月3日(月) 11:00～、14:00～
節分祭 豆まき (いわきら・ら・ミュウ)

【アクアマリンのイベント】

●2月20日(木)～3月3日(月)
つるし雛の展示

●2月22日(土)・23日(日)
ちりめん細工体験教室



展されます。

江名小で「つるし雛」作り
12月10日、中之作へままやの中川敬子さん指導の下、6年生25名がつるし雛を作りました。2月1日から中之作の清航館で開催される「つるし雛飾りまつり」に出



冬に鍛える
小名浜高校フラガールチーム
昨年の第3回フラガールズ甲子園では、第1回から続いた入賞を逃しましたが、3人のメンバーは、「捲土重来」、今夏の大会に向け練習に励んでいます。



深夜23時半。本殿前はすでにお参りに訪れた人々でいっぱい



除夜の鐘を鳴らす参拝者。寒い中、鐘楼の前には長い列ができました



震災以降、 変わり行く状況のなかで…

新年を迎えた、勿来

初詣特集

勿来町 國魂神社

境内に鐘楼があることでも有名な國魂神社。毎年10月には例祭も行われ、大きな賑わいを見せます。

震災当時、社務所にいたという宮川崇宮司。慌てて外に飛び出すと、鉄骨でできた大鳥居が左右に揺れているのを見て「ただ事ではない」と思ったそうです。揺れがおさまれば被害状況を確認したところ、社務所脇にある忠魂碑が90度右に回転しているのを発見。さらに4月に発生した余震で、今度は180度左に回転してしまっただけです。その後7月によく直すことができました。

「大きな被害はありませんでしたが、震災があった年と比べて年々参拝客が増えてきているのがわかる」と宮川宮司。今年もたくさんの方々が1年の無事を祈りました。

植田町 植田八幡神社

震災当時、近隣住民およそ100名の避難所にもなった植田八幡神社。

同神社は4月11日の余震で植田駅側の崖が崩れ、その下の道路が一時通行止め。市の協力で約2週間後には法面工事が完了しましたが、ほかにも狛犬や灯笼が倒れ、参道に大きな亀裂が入るなど甚大な被害を受けました。現在も、崩れてしまった北側の石鳥居と、基礎がゆがんでしまった本殿、倒壊してしまった玉垣の修復作業ができていない状態です。

宮川千春宮司は「自分たちでできる限り復旧作業を進めてきましたが、まだ直っていないところもあるのが現状。今後、確実に直していきたい」と、神社の早期復興を願っています。



1日には、極真館(きょくしんかん)いわき支部による空手の演舞奉納も行われました



鐘を鳴らし、今年の抱負を願う参拝者のみなさん



汐見が丘幼稚園

みんなで楽しく「お餅」作り

12月17日、汐見が丘幼稚園で「もちつき会」が行われました。前日は園児全員で餅米を研いでおき、当日に向けての準備は万端。当日は、参加した保護者に続き、33名の園児が千本ぎねで餅をつきました。

その後昼には、子どもたち全員がおゆうぎ室に集まり、みんなで仲良く餅をほおぼりました。



味は、みたらしときな粉。そのほか、お雑煮も用意されました。自分たちで作ったお餅はおいしいね!



ぺったんぺったん…2人1組になって仲良く餅をつく園児たち

復興へ向けた動き

勿来

災害公営住宅 錦団地 工事進捗状況

昨年4月、錦町鶴ノ巣^ノ巢^ノ地内への建設を予定して、地元住民への説明会が行われた災害公営住宅錦団地。現在、入居開始が予定されている4月までの完成を目標に建設が進められています。昨年11月からは内装工事が開始され、今後は駐車場の整備などにも着手していく予定です。

なお、昨年12月2日時点で、市内全域の災害公営住宅への入居申し込み件数は、窓口と郵送を合わせて832件。錦団地では、申し込みをされた方へ2月上旬に入居内定を通知したのち、説明会の開催を予定しています。

また、錦団地以外の勿来地区に建設が予定されている災害公営住宅は、佐糠第1第2、



建設中の災害公営住宅錦団地の様子(平成25年12月5日撮影)

勿来四沢、勿来関田の4カ所。佐糠については、昨年12月に用地取得が完了しました。四沢は昨年12月から工事が開始され、関田についても昨年6月に着工。現在、建設作業が進められています。

詳細については、市住宅課まで。

☎0246・22・7496

岩間・小浜地区 安全祈願祭・起工式

11月24日、岩間町と小浜町の震災復興土地区画整理事業着工に向けての合同安全祈願祭、および起工式が、岩間町川田地内で行われました。

会場には、清水敏男市長や市議会議員ほか、同地区の区長などおよそ20名が出席。工事の安全と地区の早期復興を祈願して神事が執り行われました。

また、その後行われた起工式では、市勿来区画整理事務所の比佐圭三郎所長が事業概要を説明。今後は、年度内を目標に家屋基礎などの撤去作業が行われたのち、平成26年度から宅地や道路などの整備を開始。27年度中に完了させ、住民へ引き渡す予定です。



工事の安全を祈り輸入される施工業者の方々。これまで数回にわたって地区ごとに懇談会が行われてきましたが、いよいよ勿来地区の区画整理事業が本格的に始動します。

寒さに負けず、ゴールを目指せ!元氣いっぱいマラソン大会

12月8日、今年もクレハ総合グラウンドで「第3回ふくしまっ子震災復興祈念マラソン大会」が開催されました。

昨年は8月に行われた同大会。今年は冬場の開催となりましたが、男女合わせて256名の子どもたちがエントリー。全長2kmにわたるコースを、ゴール目指して力いっぱい走り抜きました。



◀いわき市観光ナビゲーター「フラおじさん」も応援に駆けつけてくれました

▼お父さん、お母さんも応援するなか、一生懸命に走る子どもたち



▲両手を挙げて、思いっきりゴール!寒さを感じさせない走りに、多くの声援があがりました



地域住民の新たな憩いの場 関田集会所完成

11月30日、市立関田集会所の完成に伴い、鍵の引渡し式が行われました。

同集会所は、関田公民館が震災で大規模半壊となってしまったため、復興交付金事業の基幹事業である「木質バイオマス施設等緊急整備事業」を活用し、市立集会所として建設されたもの。以前は国道6号線沿いにあった公民館ですが、新たに建設された集会所は、地元住民の希望により関田御城前の千鳥幼稚園近くに移転しました。

また現在、同じく震災で取り壊しとなった後田町源道平にある後田公民館においても、跡地に集会所を建設中。年度内の完成を予定しています。

市立関田集会所:勿来町関田御城前98番地の3



新集会所は木造平屋建てで、駐車場も新たに整備されました



清水敏男市長から鍵を受け取る、関田自治会の大平武尚会長(左)

災害がれきを活用した海岸堤防完成

夏井地区に災害がれきを活用した海岸堤防が完成しました。その特徴や工法ついて、福島県いわき建設事務所事業部河川砂防課に話を聞きました。

一災害がれきを堤防に活用した経緯を教えてください

東日本大震災で発生したいわき市内のコンクリート類のがれきは327,871t。多くの災害がれきを有効活用するため、堤防がなく津波で浸水などの被害を受けた夏井地区海岸に、災害がれきを使った堤防を設置することにしました。

一堤防の特徴を教えてください

もともとあった堤防の脇から磐城新舞子橋付近までの920mを新たに海岸堤防区間とし、夏井海岸の設計津波より高潮の設定が高いことから、海拔7.2mの高さで整備することにしました。堤防はCSGを用いて粘り強い構成とし、その材料には災害がれきのうち、コンクリートがれきを活用しています。(CSGとは、砂利や砂などの岩石質材料にセメント、水を添加し、練り混ぜて製造される材料で、ダムの素材として使われています)

東日本大震災の^{こんせきだか}痕跡高は7.6m。大規模な津波については、避難を含めた総合的な対策を確立して住民の命を守ることとなります。

一コンクリートがれきをどのように活用したのですか？

コンクリートがれきを細かく砕き、セメントと水を混ぜます。それを現地に運び、厚さ30cmになるようブルドーザーで敷きならし、振動ローラーで締め固め、それを重ね合わせて、CSG堤としました。海側は階段状にするため、保護コンクリートで仕上げました。

一工期もとても迅速に進んだと伺いましたが

着工から7か月で完成しました。強く、速く仕上がることによって、地域の人に安心感を持ってもらえます。このおかげで秋に直撃した台風による高潮も新堤防で防ぐことができました。さらに復興に加速がつけばいいと思います。



上空から見たがれきを活用した海岸堤防。「CSG」を使った海岸堤防は国内初です



10月31日に完成記念植樹式が行われ、夏井小の子どもたちも植樹に参加しました

ふれあい通信

応急仮設住宅や雇用促進住宅のイベント紹介

中央台高久第一応急仮設住宅

●仮設住宅に響くピアノの音色(12月10日)

「ボランティアグループ新原」主催で東日本大震災復興支援コンサートが行われました。ピアニストの福田正人さんは先天性視覚障害者。もう一人、高生雅樹さんは聴覚障害者です。兵庫県出身の2人は阪神淡路大震災を経験し、3・11以降は被災地でのボランティア活動で演奏を続けています。

今回、演奏に使ったのは、津波で壊れた豊間中学校の修理されたピアノ。集まったみなさんは、強さ、優しさ、温かさが伝わる音色に聞き入っていました。演奏が終わると、「ありがとう」と感謝の言葉と大きな拍手が湧き上がりました。



集会所で行われたコンサートではショパンやクリスマスソングを演奏

内郷雇用促進住宅

●みんなで協力、外掃除(12月8日)

お世話になっている地域への感謝を込めて、内郷雇用促進住宅自治会(大河内喜男会長)が主体となり、平成23年11月より毎月1回欠かさず行っている清掃活動。今回、年末とあって範囲を広げて、住宅の敷地内に加え、隣接する公園や総合保健福祉センターの駐車場なども清掃しました。



子どもから大人まで協力して落ち葉をかき集めました

ふるさとだよりに情報やご感想をお寄せください!

- メールの方 / furusato@asally.co.jp
- 携帯電話からのメールはQRコードを読み取ってください。→
- FAXの方 / ☎0246-26-5157
- おたよりの方 / 左記編集室まで



いわきあいで情報発信中!!

いわきあいで

検索



ふるさとだより展のお知らせ

「ふるさとだより」の誌面や写真などを展示する「ふるさとだより展」が、^{いわき}「いわき・ら・ら・ミュウ」と^{いわき}「いわき総合図書館」で開催されます。同展は、被災した地区の現状や復興に向けた取り組みなどを広く市民に知ってもらうために開催されます。今回で3回目。誌面で掲載しきれなかった写真や各地区の記事などをピックアップして展示する予定です。ぜひご覧ください。詳しい日程等は以下の通り。

●いわき・ら・ら・ミュウ(2F展示室)

日時 / 2月6日(木)~2月26日(水)9:00~18:00

●いわき総合図書館(ラトブ5F)

日時 / 平成26年3月5日(水)~3月23日(日)

平日・土曜日10:00~21:00 日・祝日10:00~18:00

相談コーナー

●各支所での弁護士による無料法律相談会〈2月の日程〉

勿来支所 / 13日(木)、四倉支所 / 18日(火)、小名浜支所 / 27日(木)

◆主に、東日本大震災からの生活再建にかかる相談が対象

相談時間 / 14:00~17:00の間で30分程度(要予約)

〈予約・問い合わせ〉市広報広聴課 ☎0246-22-7438

表紙の人

チアリーディングチーム クラップス 小名浜チーム

後列左から●鈴木彩音ちゃん●本田梨華ちゃん●鈴木紗那ちゃん●田子ひかるちゃん、前列左から●國井穂花ちゃん、郡司莉奈ちゃん●郡司姫奈ちゃん ●山廻辺楓子ちゃん

チアリーディングチーム クラップスの子どもたちは、仮設住宅などへの慰問活動を積極的に行っています。“笑顔を絶やさず元気に応援”を合言葉に、復興へ向けて頑張る人たちを励まそうと、日々練習に取り組んでいます。

